



# 館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 8 月 25 日(日)

発行 館長 加藤 智 一

## ノイズ

8月22日(木)の山形新聞、談話室より。以下原文そのまま掲載。

『ネットの普及が進み、人は求める情報のみを得ることに慣れた。加えて、長時間労働が書物を遠ざける。疲弊から自分に関係のない知識が含まれている書籍は「ノイズ(雑音)」として映る。受け入れる余裕がなくスマホばかり見てしまう。』

この話の元となっているのは「なぜ働いていると本が読めなくなるのか」(三宅香帆著)。今春発売されてから異例の売れ行きだそうです。なんか変な感じ。この本を買った人は、みんな働いていない人なのでしょうか?そんな訳ないでしょ。多くの方が、実は心の中で本を読まなきゃ、読みたいと思っていたのに読んでこなかった。その後ろめたさに、この本のタイトルはグサッと刺さって、背中を押したのではないのでしょうか(本を買うのと、本を読むのは別な話ですが)。

さて私事。「館長だより」を書くにあたって、私は今、今まで気にはなっていたけれど、仕事に関係のない「ノイズ」として切り捨ててきた数々の疑問を積極的に取り上げて、皆様にご紹介していきたいと思っている訳です。

音楽を聴くにしても、昔はレコード盤でしたので、レコードに針を落としてから曲がはじまるまでの短い「間」に聞こえてくる「ざらざら」「ぼちぼち」しているノイズがあればこそ、今から音楽がはじまるという期待感や心構えが整うというもので、いきなりドカーンと始まってしまう今日の、成果第一主義と言うか、デジタル的思考と言うか、遊びがない、余白を感じさせない世相が、少子高齢化社会で、人口減少著しいにもかかわらず、心を病む人々が増え続けている現実に結びついているような気がしてなりません。

米沢工業会(山形大学工学部 0B 会)の大先輩である菅野昭義氏は天童市民会館を中心に「懐かしのレコードコンサート」を毎月定期的で開催されています。100名を超える方々が集まり、ブルーコマッツ、フランク永井、ビートルズ、イルカ、タイガース、谷村新司、小柳ルミ子など、世代もジャンルも異なる曲を皆さんで鑑賞されています。8月18日のコンサートで、139回目になるのだとか。日頃イヤホンで自分だけの世界に浸っている若者にも、

大きなスピーカー、アンプをはじめとするこだわりのステレオ構成、大音量でホール内に響き渡るレコードの音色を是非感じて欲しいものです。



## ソリッドマーカー (楸)サクラクレパス

先日、「ガッチリ〇〇〇〇」というテレビ番組をみていたら、すごい商品を紹介していました。

サクラクレパスと言えば、よい子のみんなは知っている、「クレヨン」のメーカーです。

ところがこの商品、見た目の可愛さに似合わぬ優れ物で、製造業から建築・建設業までプロが認めるイッピンなのです。価格は440円(税抜価格400円)、すぐ書ける、ボタ落ちしない、ペンキのようにカクハンしなくてもよく、ハケや筆がいらない、筆やとき皿の後始末の必要もない、上向きでも書ける、ペンキのように飛沫で服や手を汚すことがない、カラフルな8色展開、最後まで使え長持ちする、後部のネジを回転(送り出し)させ、最後まで使うことができる、工業用・建築用・業務用として鉄・鉄鋼・木材・合成樹脂・ガラス・ゴム・皮革・植木鉢にもかける、水中でもしっかり書ける。正に万能。イメージとしては、口紅みたいですが、ペンキのように簡単には色落ちしません。これで落書きされたら大変なことになりますね。バンクシーにはお勧めかもしれない。

